



✎ Ursula Nafula
🗉 Jesse Pietersen
🗉 Aiko Komatsu
🗉 Japanska
📖 nivå 2



草木に話しかけるカウイ

Sagor för barn på svenska



草木に話しかけるカウイ

Skriven av: Ursula Nafula

Illustrerad av: Jesse Pietersen

Översatt av: Aiko Komatsu

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons

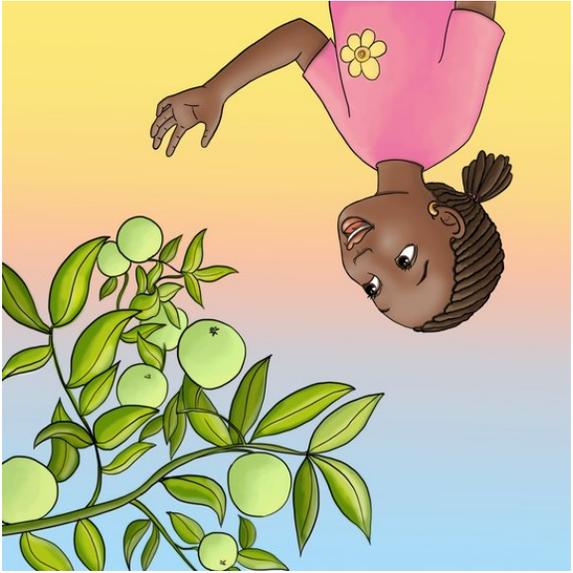
[Erkännande 4.0 Internasjonal Licens](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.sv).

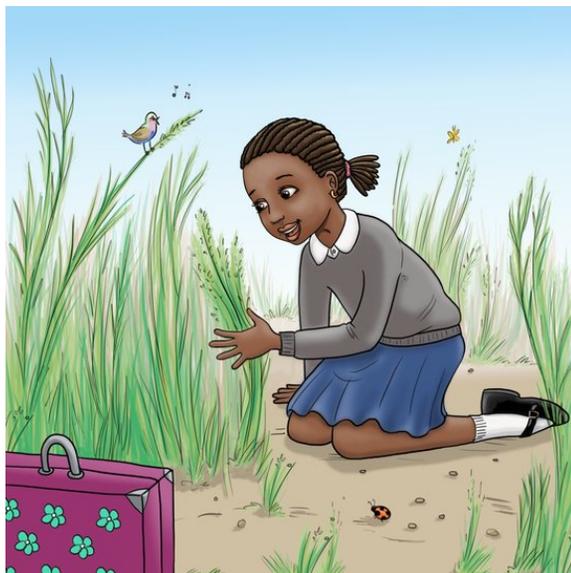
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.sv>



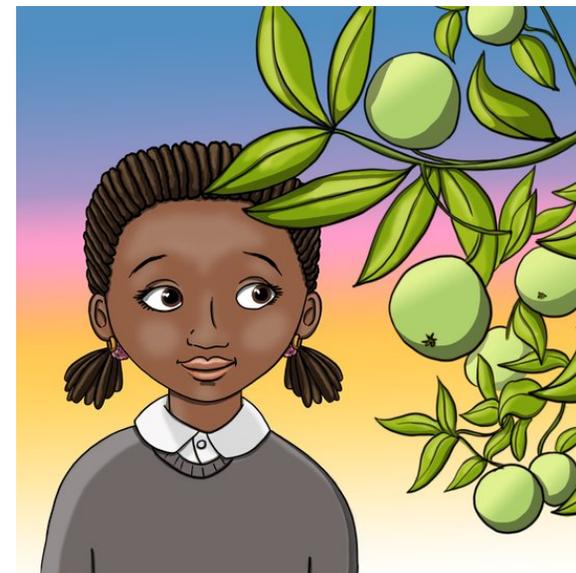
この子はカライ、7歳の女の子です。
カライの名前はカライの国の言葉のブ
クス語で「良いもの」という意味で
す。

カヲイは起きるとオレソジの木に話し
かけます。「お願い、オレソジの木。
大きく育て、私たちにたくさんのお熟
れたオレソジをちょうだいな」



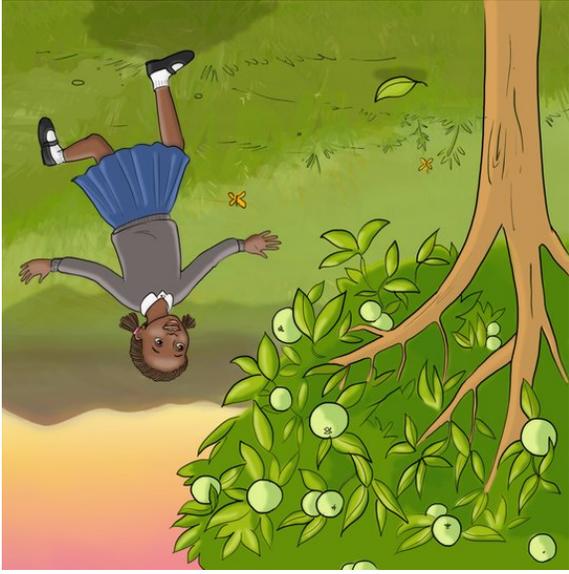


カライは学校まで歩いて行きます。歩きながら、カライは草に話しかけます。「お願い、草たち、もっと濃い緑になってね。カラカラに乾いたりしないでね」



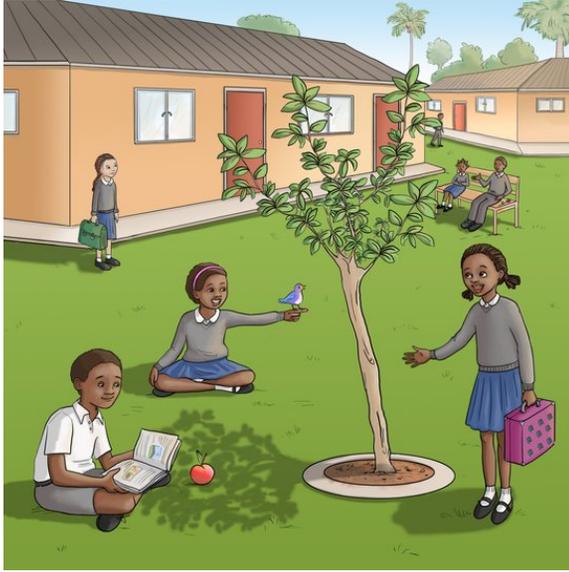
「オレンジの実はまだ青いわ」と、カライはため息をつきます。「また明日ね、オレンジの木さん」とカライは言います。「多分その時には私のために熟したオレンジを用意してくれるわよね！」

カライは学校から家に帰ると、オリンジの木のところへ行き訪ねます。「オリンジの木さん、あなたの実は熟れたかしら？」とカライは尋ねます。



カライは野の花のそばを通ります。「お願い、花たち、ずっと咲いていてね。私が髪に飾れるように」





学校では、カライは校庭の真ん中にある木に話しかけます。「お願い、樹木さん、枝を大きく広げてね。私たちが木陰で本を読めるように」



カライは学校の周りをめぐる生け垣にも話します。「お願い、強く育ててね。悪い人たちが中に入ってこられないように」